

登録コード	T2BC1200	開講年度	2026				
授業科目	プログラミング言語（16T以降）				担当教員	小形 真平 他	
英文授業名	Programming Language 2				副担当	畑 秀明	
単位数	3	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・1時限 金曜・2時限	対象学生	電子情報システム工学科2年生
講義室	工C3-200教室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
	2 5 Tカリ, 2 3 Tカリ						
	【22T～】共通教育による幅広い教養と、工学の専門分野における基礎学力が身についている。				工学の専門分野における基礎学力として、プログラミング言語Cの基礎的概念を理解できるようになる。		
	【22T～】専門の学力を基礎とし、的確な情報を収集・理解し、これを他の人に発信できる能力が身についている。				習得した知識を基礎とし、プログラミング課題や作品（プログラム）の制作・評価を通じて、Cプログラムの開発に必要な情報の収集・理解、ならびにCプログラムの説明や評価が実践できるようになる。		
	【22T～】様々な課題を見つけ取り組む力が身についている。				プログラミング課題や作品（プログラム）の制作・評価を通じて、解決すべき様々な課題の発見、ならびに課題解決に向けたアルゴリズムの思考による問題解決方法の考案とプログラミング言語Cによるプログラム開発ができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	本授業は、プログラミングに関する講義と演習により構成される。 演習では、各受講生が持参する、学内ネットワークに無線接続可能なノートパソコンを用いる。 授業前半から中盤までは、プログラミング言語Cの基礎的概念等の知識に関する講義を提供した上で、知識・技術の習得度合いを確認するために講義内容に基づくプログラミング課題等による演習を行うことを基本とする。 授業後半では、プログラミングの知識や技術の習得度合いを総合的に評価するために、作品（プログラム）の制作・評価に関する課題を課す。						
(5)授業計画	基本的には授業は以下のように進行するが、進度等の理由により変更する可能性がある。 第1週：ガイダンス（授業概要・演習環境の説明） 第2週：変数の型・制御構造 第3週：配列 第4週：ポインタ 第5週：関数、変数の有効範囲（スコープ）と寿命 第6週：関数とポインタ 第7週：文字列と配列・ポインタ 第8週：標準関数（ライブラリ関数） 第9週：構造体 第10週：構造体とポインタとリスト構造 第11週：オブジェクト指向プログラミング言語Javaの導入 第12週：CとJavaの比較 第13週：作品制作 第14週：続・作品制作 第15週：作品評価・授業アンケート実施 第2週から第12週までは基本的に毎週、講義の提供と演習の実施を行い、演習ではレポート課題等の課題を課す。 レポート課題の締め切りは1週間程度とし、それ以外の課題の締め切りは授業時間内とすることを標準とするが、課題個別の締め切り詳細は授業内で通知する。 作品の制作・評価では、数週間に亘りプログラム作品を制作した後に、1週間程度で他者の作品を評価するものとする。						
(6)成績評価の方法	レポート課題の内容を50%、作品制作・評価の内容を50%の配分で、成績評価を行う。ただし、正当な理由なく期限を過ぎて提出されたレポートや作品、作品評価については原則受理しない。						
(7)成績評価の基準	レポート課題ならびに作品制作・評価において、授業で示した例題と同レベルの問題が解け、作品等が表現できれば総合して「合格水準にある」、応用レベルの問題が解け、作品等が表現できれば総合して「やや上にある」、やや難しい応用レベルの問題が解け、作品等が表現できれば総合して「かなり上にある」、例題からは難しい応用レベルの問題が解け、作品等が表現できれば総合して「卓越している」とする。						
(8)事前事後学習の内容	授業内容を要約した資料をeALPSに提示する。受講者はこれらの資料と教科書・ノート等を毎授業時間後に読み、学習内容を理解できるように十分に復習を行う必要がある。 また、既に学習したC言語の基本的な文法やプログラムの組み立て方について、理解が不十分なところがある場合には、教科書・参考書の練習問題や自分で設定した問題を解決するプログラムを作成する演習を十分に行う必要がある。						
(9)履修上の注意	プログラミング言語Iの内容を理解していることが求められる。 演習のため、学内ネットワークに無線接続可能なノートパソコン、筆記用具を必ず毎回持参すること。						
(10)質問,相談への対応	基本的にはeALPS上の質問フォームで質問すること。eALPSで質問できない場合等は下記メールアドレスにて質問を受け付けるので、@shinshu-u.ac.jpのメールアドレスからメールをすること。また、直接質問						

(10)質問,相談への対応	をしたい場合にも,あらかじめメールにて連絡することが望ましい. メールアドレス: proglang2-ml@shinshu-u.ac.jp
(11)その他	
【教科書】	柴田望洋 著,新・明解C言語 入門編 第2版,SBクリエイティブ,2,530円
【参考書】	柴田望洋 著,新・明解C言語 中級編 第2版,SBクリエイティブ,2,750円